

工 事 書 報

終 刊 の 辭

我國の技術雜誌に一大革新の時機が來ました、これは我等が多年希望して然も實現の容易ならざる問題でありました。

今回政府當局の執られた技術雜誌の統制に對し、我等は心からなる賛意を表しました。而して此際こそ我技術雜誌が大團結して一大革新を實現すべき絶好の機會であると信じ、土木關係の技術雜誌社に眞劍な協力を求め、大乘的に多大の努力を拂つたのであります

而して爰に先づ同業雜誌「月刊工學研究」及び「土木建築時報」と、我「工事書報」とを合併して強力なる新組織の下に新に「土木エンジニア」と改題し、総合的土木雜誌としての内容を以て發行する事となりました。

今日この九月號を以て「工事書報」の編輯を終りますが、十六年の過程を回顧しますと實に感慨無量のものがあります。我工事書報は大正十四年の創刊以來各方面の先輩各位から多大の御指導をうけまして、工事報國の雜誌としては殆んど遺憾なき奮闘をつゞけて來ました。然し名譽ある先輩の中には既に故人となられた人々もあります。而して「工事書報」も亦今月號限りで其發行を終るのでありますが、然し先輩各位御指導の精神は決して之を以て終るものではありません。十六年間の「工事書報」の指導精神は將來の我國工事文化に益々強固なる發展を續ける決心であります。

今や日本帝國の使命と世界の新動向とは、我が土木人に亦新なる努力を要求してをるのであります。而して時局は土木雜誌人にも革新の機會を與へてくれました、我々は今後勇躍して工事精神の一大活動を繼續しなければならぬのであります。

爰に多年の間御懇篤なる御指導と御支援を與へられたる先輩及各位に對し、深甚なる謝意を表すると同時に、來るべき新體制への決意を御報告致し、今後尙一層の御叱正と御支援を賜らん事を謹んで懇願致す次第であります。

紀元二千六百年九月一日
東京丸ノ内三ノ六

	工	事	書	報	社
社 長	鶴	田	勝	三	
主 幹	岡	崎	保	吉	